

第1回富山きときと空港運営あり方検討会議 議事概要

1. 日時 令和3年8月26日（木）15:00～17:00

2. 場所 富山県庁4階大会議室、オンライン

3. 出席委員

山内委員長、下川委員、中村委員、花岡委員、前田委員、宮本委員、森田委員、渡邊委員、吉田オブザーバー

4. 議事（概要）

（1）富山きときと空港運営あり方検討会議の設置趣旨（資料1、2）

（2）富山きときと空港の現状と課題（資料3、資料3参考資料）

＜主な意見＞

- 北陸新幹線と空港を活用して、ワーケーション需要を増やしていくための政策に注力すべき
- 新幹線との補完関係をうまく築いていくことが、誘客面で重要になる
- 富山空港はビジネス利用が多く、今後もビジネス利用客は意識すべき
- 空港から県内の有力な観光地を結ぶ二次交通の充実が重要
- 空港及び空港周辺にわざわざ行きたくなるコンテンツを作ることが必要
- 空港の周辺も含めて、空港に行きたくなる施策を取るべき
- 羽田便を利用して周辺の様々な場所に行けることを、日本全国・全世界に伝えて誘客していくことが重要
- 空港は地域ごとに特殊性のある施設のため、事前にその特殊性を踏まえて、論点を整理し、民間活力導入の仕掛けと工夫が重要
- 近隣空港においてコンセッションの検討が進んでいるが、論点をフォローしつつ、連携できるところは連携する方がよい

（3）将来像の検討にあたって（資料4）

＜主な意見＞

- コロナ後は、ワーケーションのような双方向の需要を増やすことが重要
- 観光スポットが点在しているため、二次交通は重要な問題である
- 旅行客増加のためには、地域連携が重要
- 空体の魅力を周辺、ソフト面も含めて向上させ、地域の支持を得ることも重要
- 空港の魅力向上、地域連携には民間事業者の視点が重要
- 空港基本施設とターミナルの経営を一体化することにより、これまで別々で運営していることによる無駄な部分があれば、それを削減することができ、効率的な空港運営になる